

第8回 大牟田市立学校適正規模・適正配置検討委員会（摘録）

【日時】 平成30年3月27日（火） 15:00～16:50
 【場所】 労働福祉会館2階 研修室
 【出席者】 検討委員会委員 12人 欠席4人
 教育委員会事務局 8人

【次第】 司会：学校再編推進室主査

1 開会

2 議題

（1）第7回大牟田市立学校適正規模・適正配置検討委員会摘録について

発言者	発言内容
委員長	<p>第7回の検討委員会の摘録について、前々回の委員会では現橋中学校の施設活用の検討を行い、前回は既存の近隣校の施設活用について検討を行いました。</p> <p>配付資料1で内容を確認されたと思いますが、これまで同様個人が特定されないよう配慮した摘録としてまとめられています。</p> <p>内容等含めて、この摘録の内容でよろしいかお伺いします。</p>
全委員	承認

（2）学校施設の活用検討について

委員長	<p>次の協議に入る前に、本日の会議の取り扱いを確認します。</p> <p>本日の委員会も原則公開で進めたいと思いますが、議事の進行途中で皆さんからの自由闊達な意見等が出しにくい状況があれば、その時点で会議の公開・非公開の扱いについて、お諮りすることもあると思います。</p> <p>このような取り扱いでよろしいでしょうか。</p>
全委員	了承
委員長	<p>次の議題に移ります。</p> <p>学校施設の活用検討についてです。</p> <p>これまで当委員会では、皆さんと現地視察等を行いながら、前々回では現橋中学校、前回はその近隣校の施設活用の検討を行いました。</p> <p>その間、様々な課題等を共通認識しながら、より良い方向性を求めて検討を重ねてきました。</p> <p>現在、見直しを検討している現計画が策定された際の検討委員会においても、同じように現地視察等を行い各学校の課題等を十分捉えながらも、適正規模・適正配置の観点のもと、平成25年4月の答申に至ったようです。</p> <p>その当時の委員の皆さんは相当なご苦勞をされたものと推察されます。</p> <p>前回の委員会でも委員の皆さんから様々な意見、質問がありましたが、それに関して事務局で補足説明等あればお願いします。</p>
事務局	<p>本日お渡ししています地図をご覧ください。</p> <p>前回第7回の検討委員会の際に、委員よりご提案をいただいた近隣の河</p>

	<p>川の調整池の活用の検討結果について報告します。</p> <p>橘中学校は敷地の南側に福岡県が管理する２級河川の白銀川に隣接しています。</p> <p>平成２年７月に大雨が降り、市内の広域にわたり大規模な浸水被害がありました。</p> <p>浸水対策として国の激甚災害対策特別緊急事業という国の指定を受けて、福岡県の事業として白銀川調整池公園が整備されています。</p> <p>この調整池の大きさは、１０万トンの調整能力（一時的な貯水）が必要ということで敷地面積としては約５万４千平方メートルとなっています。</p> <p>現調整池を学校施設として整備をした場合には、河川の浸水対策の大幅な見直しが必要となるため、河川法に基づく河川管理者である福岡県の許可等手続きが必要となります。仮に整備を進める場合、国の激甚災害指定時の整備費の補助金の返還が求められることもあるかと思えます。</p> <p>また、現在の調整能力約１０万トン現在の橘中学校のグラウンドを整備することで補おうとすると、約１万平方メートルのグラウンドでは単純計算で深さが約１０メートル必要になるので、イメージとしては都心部にあるような地下をドーム状にくり抜いたような大きな調整池の整備が必要となります。</p> <p>また、橘中学校の周りには古くから住居が密集しているため、深さを解消するための開発による調整池の確保は厳しいのではないかと感じています。</p> <p>したがって、委員からご提案を受け検討した結果、現実的には非常に厳しいと判断しています。</p>
委員長	<p>前回、この件については、関係部局と調整、確認ということで保留していた案件でした。</p> <p>以上、説明を受けましたが、よろしいでしょうか。</p>
委員全員	了承
委員長	<p>そのほか、皆様から何かご意見はありませんか。</p> <p>本日の後半は、これまでの委員会の意見等を振り返りながら、現計画の全体を見ていきたいと思しますので、何かありましたらそこでもお願いしたいと思えます。</p>

(3) 小中一貫校について

委員長	<p>それでは、次の議題に移ります。</p> <p>小中一貫校についてです。</p> <p>この件については、前回少し触れて事務局から補足説明を受けましたが、今回小中一貫校についての議論を行いたいと思えます。</p> <p>小中一貫校という教育制度については、学校の規模や配置等とは、また少し違った視点であると思えますが、大牟田市の今後の中学校の在り方として再編との関連性は高いと思われしますので、今回議論を行いたいと思えます。</p> <p>なお、現計画が策定された際の検討委員会においても、この小中一貫校に関して特徴やメリット、デメリットについて意見が交わされているようです。</p> <p>当時の検討委員会としては、最終的には「小中連携教育の推進を図る」</p>
-----	--

	<p>として広くまとめてあるようです。なお、この件は現計画の中にも小中連携教育の推進として示されています。</p> <p>前検討委員会とは委員もほとんどが替わっており、小中一貫校とはどういふものなのか、まずその認識が必要と考えますので、事務局から説明をお願いし、その後皆さんから質問、意見をお受けしたいと思います。</p>
事務局	「(資料2) 小中一貫教育について」及び「資料ア」～「資料キ」に基づき説明。
委員長	ただいま事務局から説明を受けましたが、意見、質問があればお願いします。
委員	小中一貫で9カ年で子ども達を育てるという思いはありますし、9年で子ども達の成長を見ることができるようになるのはプラスになって良いことだと思いますが、デメリットとして「小学校の教員が中学校の部分を持ってない」とありましたが、教員免許の壁があるのではないかと感じましたので、そういった部分の整理はどのようになっているか教えてください。
委員長	<p>ただいま教員免許の話が出ましたが、例えば小から中、中から小への相互乗り入れにおいて、複数の免許を持っていれば良いでしょうが、小学校の免許しか持っていなくて中学校の教科を指導できるのか、あるいは逆に中学校だけの特定の教科の免許を持っていて小学校で指導ができるのか。</p> <p>私も今の質問を聞いて思いましたが、その辺り免許については何かありますか。</p>
事務局	<p>義務教育学校については、原則小中両方の免許を所持ということになっていますが、原則はありながらもいろいろな方策がとれます。</p> <p>(資料「小中一貫した教育課程の編成・実施に関する手引」75頁～76頁における「所有免許状による制約に関する考え方」参照)</p>
委員	<p>2点お尋ねします。</p> <p>まず、最近新聞等で小中一貫校について記事が取り上げられていますが、その中で子ども達の学力アップにつながるということがよく書いてありますが、実際に学力が上がっているのか、そのデータはあるのでしょうか。</p> <p>もう1点は、大牟田市の教育の特色として小中一貫校の導入の考え方はあると思いますが、小中一貫校の良さが出る条件を整える必要があると思いますが、その場合どのような条件が揃えばよいでしょうか。</p>
事務局	<p>1点目の質問の学力アップについては、確かに小中一貫校とすることで学力アップが図られたという報告はたくさん上がっているところです。</p> <p>先ほどご覧いただいた手引きには、これまで既実践された学校の評価と改善がまとめられています。</p> <p>それによると確かに効果はあるとありますが、ただ、導入を宣言したからといってすぐ成果が出るような単純なものではありませんとの記述もあり、やはりそれぞれの学校で苦労された上での学力アップかと考えております。</p> <p>(資料「小中一貫した教育課程の編成・実施に関する手引」33頁～34頁における「評価と改善」参照)</p> <p>2点目の小中一貫校の良さが出る条件ですが、先ほどの質問と少し重な</p>

	<p>る部分もあるかもしれませんが、小中一貫校の特色の一つは、小学生への教科担任制があると思います。</p> <p>専門性の高い教育を受けることで学力が伸びているというのも一つの要因であると思っています。</p> <p>そうすると、いわゆる「乗り入れ授業」を実現することになりますと、ある程度の中学校規模が必要になるのではないかと思います。</p> <p>中学校の同教科の先生が複数人数いないと、小学校への「乗り入れ授業」はなかなかできないのではないかと思います。</p> <p>また、職員の免許状の所持率も関係してくるのではないかと思います。</p>
委員	<p>小中一貫教育の一番のメリットは、やはり中1ギャップの解消が大きいのではないかと思います。</p> <p>中1ギャップの解消に向けては、現在でも小中連携といった形で取り組まれている部分もあると思います。</p> <p>例えば、中学校の運動会に小学校も参加する、クラブの子が指導に来てくれたり、合同の清掃活動を行ったり、児童会と生徒会で合同のミーティングをして同じ取り組みを進めたりということで、中1でのギャップをあまり感じないように、また壁を取り除くような取り組みはかなりできているので、そのような方法でも十分できるのではないかと思います。</p> <p>中学校の専門性の高い先生からの授業は、小中連携教育の大きな魅力の一つだろうと思いますが、自分がハードルの高さを感じるのは、先生の人数にもよりけりだろうと思います。</p> <p>松原中学校だと7クラスくらいですから、そんなに多くの教科の先生はおられるわけではないというのが一つ、もう一つは大正と松原で考えるとどちらかの校舎の一つに入り込むのは無理でしょうから、近いからできるだろうということかもしれませんが、職員室が一つでないと細かい打合せもパツとはできないだろうと思います。東峰学園（旧宝珠山小学校と旧小石原小学校が統合し、東峰中学校の敷地内に開校）の小中一貫校に行ってきましたが、かなり大きく校舎をとってあり、職員室も小中一緒です。</p> <p>打合せも一緒になってできるような場が作ってありますので、調整の面から考えても、専門性の高い授業は魅力ですが、現状のまま進めようとするとなかなか難しい面が多いのではないかと感じたところです。</p>
委員長	<p>中1ギャップについては、これまでの連携の取り組みによっても改善されているといった話でした。</p> <p>具体的な学校を想定して検討いただきましたが、資料の中では併設型や施設分離型等ありますが、施設一体ではないものが一番多いのですよね。</p> <p>そうすると先生だけでなく、児童・生徒も移動が必要になりますが、どのようにしてあるのか、あるいはどんな工夫がされてありますか。</p>
事務局	<p>すべての学校に調査をかけたわけではないので一部の回答として少し偏るかもしれませんが、小中一貫型の場合は各学校に校長がおり職員室がありますので、各学校で完結しています。</p> <p>9年間のカリキュラムは立ててはいるものの、すべての授業で交流することは物理的に無理だと思います。</p> <p>ですから、学校行事や地域のボランティア活動等の行事をしっかりと組んで、いついつ一緒にやりましょうといった展開になるのではないかと思います。</p> <p>また、教員同士も移動時間が生じるため、日常の授業となると年間最初</p>

	<p>から仕組みを考えておかないと、近日中のスケジュールだけでは実施できないのではないかと思います。</p>
委員	<p>意見という形で言わせていただきます。</p> <p>小中一貫の条件として、ある程度の規模が必要ではないかとありましたが、子ども達のより良い教育環境を整備するためにも適正な規模が必要であると考えます。</p> <p>資料中の舞鶴小学校のメリット、デメリットにもありますように、職員の定数の問題、規模、7学級数ということなので（松原中学校と）一緒ですが、ほとんどの教科で1人の教員が3学年みなければならない、生徒にとっても職員にとっても指導力アップということからするとあまり望めないのではないかと思います。</p> <p>適正な条件が整うならば、例えば校区を越えてでも認める等も考えないと、現状では望ましいとはならないのではないかと思います。</p> <p>校区を広げたということを保護者や地域の皆さんがどのように受け止めるのかは分かりませんが、規模による定数配置から考えての意見です。</p>
委員	<p>平成24年度の適正規模・適正配置検討委員会の資料や摘録を拝見すると小中一貫校についての議論がなされていますが、その当時も学力アップ、中1ギャップの解消等のメリットや、先生の免許状の問題、職員の問題、校舎配置の問題等のデメリットの両面が出され、大牟田の子ども達にとってどうかという議論が真剣に行われていたことが分かりました。</p> <p>最終的には小規模な小中学校を、小中一貫校はクラス替えがなかったり、人間関係の固定化等が懸念される意見が多く、今後も検討課題になっていたと思います。</p> <p>人間関係の固定化という点では議論が尊重されるべきではないかと思います。</p>
委員長	<p>9カ年クラス替えがない規模で進むと完全な固定化になるので、そのような意味ではいじめ等の可能性がないわけではないというご意見だと思います。</p> <p>小中一貫教育が出てきた背景は、中1ギャップの解消を想定して6・3制の見直しから始まったのではなかったと記憶していますが、国の動きとして、4・3・2の区切りにしようというような動きはもうないのでしょうか。</p> <p>このような区切りが全校一斉に市町村の判断で弾力的にできるようになれば、全校同じような取扱いでやるのが可能になってきます。</p> <p>このあたり、国の動向が分かればお教え願いたいのですが。</p>
事務局	<p>平成28年4月に学校教育法の一部が改正されます前は、法的な制度化がなされていませんでしたので、国の指定を受けて小中一貫校としていましたが、制度化されましたことで市町村単位で条例で実施できるようになりましたことから、例として前期4年、中期3年、後期2年という今までにない教育課程を組んで子ども達の発達段階に合った指導がなされる学校が出てきて、学力の向上が図られている学校も多数出てきています。</p> <p>今は市町村の方へ、ある程度条例でということになっていますので、市町村の教育委員会としては、市町村単位で考えるものと思います。</p> <p>（「資料2）小中一貫教育について」参照）</p>

委員長	皆さんからいろいろご意見、質問をいただきましたが、ここで少しまとめてみたいと思いますので、5分ほど休憩を取ります。
	5分間の休憩
委員長	時間になりましたので再開します。
事務局	<p>まとめの前に、先ほど説明しました内容に補足します。</p> <p>「(資料2)小中一貫教育について」の12頁に、前回の検討委員会にて説明しました「要望書」を添付しています。</p> <p>松原中学校区における小中一貫校の設置検討を求める要望を、大正・中友校区の代表者から市長宛に要望書をいただきました。</p> <p>前回も申し上げましたとおり、3つ観点から要望が出され、「教育力・学力の向上が望めるのではないか」「将来に向けたまちづくりの一環」「地域コミュニティの崩壊」といった点から小中一貫校の設置に向けた前向きな検討をお願いしますという要望を受けているところです。</p>
委員長	<p>事務局から要望について補足説明がありました。</p> <p>皆さんから一貫校について、プラス面、マイナス面等、いろいろなご意見をいただきました。</p> <p>少しまとめますと、まずいわゆる小中の「乗り入れ授業」に関して、免許の話が出ました。</p> <p>専門性の高い指導を受けることで学力向上が図られるということですが、果たして効果がきちんと検証されているのか、との質問がありました。</p> <p>中1ギャップの対応策としても小中一貫教育が出てきたわけですが、大牟田市でも学校でのこれまでのいろんな取り組みによって、ある程度解消されているのではないかという話がありました。</p> <p>小中一環教育を現実的に実施していく上では、ある程度の学校規模が必要ではないか、より良い効果を出すためには教育条件を改善していくような、ある程度の条件が揃って進めていけば、なお一層の効果が期待できるのではないかというご意見だったと思います。</p> <p>最後に、人間関係の固定化のご意見が出ました。</p> <p>人間関係が固定化すると、何か問題が起こった場合になかなかそれを解決するのも時間がかかるし、いじめが起きた場合にどうするか、いじめが起こりやすいのではないかという懸念もあるのではないかというご意見だったと思います。</p> <p>様々な意見がありましたが、子ども達の面から見た場合、教職員の面、保護者・地域の面から見た場合どうなのかと、いろんな見方があると思います。</p> <p>本日は皆さんから自由な意見をいただきましたので、次回はいただいた意見を整理して、さらに協議を行って検討委員会としての考え方なりをまとめることができればと思います。</p> <p>皆さんそれでよろしいでしょうか。</p>
委員全員	了承

(3) その他

委員長	<p>当委員会は今回で8回を数え、協議もまとめの段階に入りました。</p> <p>これまでの検討を振り返りますと、議事録や今回の資料等からも、いろ</p>
-----	---

	<p>いろな意見等が出ています。</p> <p>その中には、現計画にある基準や考え方に関連することも既に多く出てきています。</p> <p>このため、今の時点で現計画で述べられている基準や考え方、記述の文言等について、どの部分が見直しの項目となりそうなのかということを一通り確認して共通認識しておくことが必要だと思います。</p> <p>今後さらに詰めていく必要はありますが、今のような視点で現計画を改めて見ていきたいと思いますが、いかがでしょうか。</p>
委員全員	了承
委員	<p>先ほどまで小中一貫の話をしていて、それを置いておいてまた戻していくという流れですが、次回はまた小中一貫の話をされるのですか。</p> <p>また、本委員会としては要望書に対して答えるという方向性でまとめていくのですか。</p>
委員長	<p>そうではありません。</p> <p>要望は要望として市なり教育委員会が受けているものです。</p> <p>小中一貫をどうするのかということで、前回は検討されたと思います。</p> <p>それと同じような形で検討するというので進めたいと思います。</p> <p>今回は計画の見直しの個々の議論まで深くは入りませんが、今後の答申を意識しながら見直しを考えられる箇所を皆さんと捉えておきたいと思っています。</p> <p>皆さん既にイメージをしているのではないかと思います。よろしくお願いいたします。</p> <p>まず、私がイメージした内容を何点か申し上げたいと思います。</p> <p>最初に現計画の3頁の(2)の「小中学校の適正規模」、それから4頁(3)「小中学校の適正配置」についてです。</p> <p>ここでは、学校規模、通学距離の基準が設けられていますが、これまでの協議の中で学級数の弾力的な運用、あるいは柔軟性が必要等の意見や、通学距離に関しては、少々遠くなくても教育環境が整っている学校へ等の意見がありました。</p> <p>このような意見を踏まえて基準や運用面での取扱いについてご意見があればお願いします。</p>
委員	<p>私は2頁2(1)の「再編基準の見直し」や3頁の(2)の「小中学校の適正規模」について、意見を述べます。</p> <p>適正規模については、基準は一定必要だと思います。</p> <p>これまで通り12～18学級の基準が良いのではないかと思います。</p> <p>ただし、地域のコミュニティの基盤である小学校の校区を単位とした再編を尊重する必要があると思います。</p> <p>ある小学校の半分はある中学校へ、もう半分は別の中学校へ行く学校もありますが、できれば小学校単位で再編したらよいのではないかと思います。</p> <p>宮原中学校の再編で見られましたように、適正規模の基準でありながらも市内全体のバランスから考えますと、実際あれ以上校区を広げることができず、12学級を下回り現在9学級となっています。</p> <p>そのようなことから考えますと、本当は12学級以上あった方がよいとは思いますが、小規模校となることは避けながらも、ある程度その地域の</p>

	実情に応じた弾力的な再編はあってもよいのではないかと考えます。
委員長	地域の実情を考慮して、弾力的な運用をというご意見でした。
委員	<p>今のご意見に関連してですが、やはり地域の実情によって弾力的な考え方ということはすごく大切だと思います。</p> <p>以前いただいた国の資料の中で、適正規模は12学級以上だが地域のニーズ等によっては、それが難しければ9学級くらいでも教育の環境は整うだろうということで、そのような考え方でもよいとありましたので、やはり弾力的な考え方は大切だと思います。</p> <p>ただ、国が出した基準がすべてよいかというと、通学時間で考えると公共交通機関を利用して60分ですと、大牟田市の場合は60分で行けますので1校でよいのではないかとありますが、国の基準は大事にしながらも地域の実情とは合わない部分もあるので、すべてが国の基準ではないが実情に合うよう考えていくことが大事だと思います。</p> <p>今まで皆さんが時間を費やして話し合ってきたように、ある程度通学距離や校区等を尊重しながら、適正配置で再編されるのがよいと思います。</p> <p>そうすることが、そこで教育活動を行う主役である子ども達にとって一番よいのではないかと考えますので、弾力的な考え方はすごく大切だと考えます。</p>
委員長	<p>地域の実情が非常に大事ではないかと、基準は基準としてあるべきだというご意見だと思います。</p> <p>そのほかご意見があればお受けします。</p>
委員	<p>今、配置の問題や規模の問題が出ていますが、それを進めていく上で中学校単位を基本に据えた上で小学校を考えていかないと、自分が聞いている中では、ある中学校の前に住んでいる子ども達が全然違う場所(中学校)に行かなければならないというケースも出てくるようです。</p> <p>案は案として作っていく必要はあるでしょうが、校区の方、地域の方、保護者の方、いろいろ小学校の皆さんのご意見を聞きながら、弾力的に進めていく必要があるのではないかと考えたところです。</p> <p>そういう意味での配置上の弾力化を続けていく必要があるだろうと思います。</p>
委員長	<p>地域の実情の中には、地域の方の声を聞くことは非常に大事なことだというご意見だと思います。</p> <p>次に、現計画の5頁中段の「学校施設の整備」に関してです。</p> <p>現計画の中では述べられていませんが、これまで仮校舎活用の負担について意見が出されていました。</p> <p>その件を新たな項目としてここに書き加えるかどうかですが、これに関しては再編後のアンケート調査の結果、今後の再編に活かす課題としても仮校舎活用の話が出ていますし、併せて再編に伴う施設整備については学校や児童の負担が大きいといったアンケートでの書きぶりでした。</p> <p>再編前にきちんと施設整備については行ってほしいとの声もありました。</p> <p>そのような結果を受けて、新たにここに項目として書き加えるかどうかですが、これについてご意見ございませんか。</p>

委員	<p>私も仮校舎を2回ほど経験しましたので、仮校舎を使っている間に通学路を2回変更しなくてはいけないという問題も出てきます。</p> <p>横断歩道を付けてほしいと言ってもなかなか簡単にはいかないということが一つ、それから、ここを通学路に指定する、それをまた変更すると子ども達の安全を確保する上で心配なことが多いということがあります。</p> <p>学校の施設が移ってから工事があると非常に負担が大きいという話がありましたが、工事が行われている中で子ども達が勉強していくのに、上から物が落ちてくるだとか、ここは幕が張ってあり足場が組んであるから入ってはいけないといった場面もしばしばありましたので、十分気を付けながら進めた次第です。</p> <p>負担が大きいというのは、教育活動に制限がかかる、子どもにとっての安全面の点から配慮するというのをぜひ加えてはどうかと思いました。</p>
委員長	<p>次は6頁の4「学校再編整備に当たっての配慮事項」の箇所ではないかと思いますが、再編の施設整備に必要な財源の確保についてです。</p> <p>学校再編整備には、これまでも相当な費用がかかっています。</p> <p>前回も市として大きな事業がいくつか控えている中で再編ができるのかという心配する意見もありました。</p> <p>ここは新たな項目として財政計画等も追記した方がよいのか、ご意見があればお伺いしたいのですが、いかかでしょうか。</p>
委員	<p>前回も話し合われたと思いますが、中間見直しをするということは、学校や地域の皆さんにもご理解をいただくための説明の機会や周知の期間が必要になると思います。</p> <p>見直し案には期間等ある程度の見通しを示す必要もあるのではないかと思います。</p> <p>予算面においては、子ども達の教育環境整備は最重要課題ではありますが、現実的なことも考え、ほかにも大牟田市の大きな事業があることから、総合的に考える必要があるのではないかと思います。</p>
委員長	<p>次は、適正規模・適正配置による再編計画に関してです。</p> <p>6頁に計画期間、7頁に中学校の再編の枠組み、中学校区内の小学校の再編として図が書かれています。</p> <p>これは再編時期の話に関わりますが、特に中学校においては見直しの内容や周知について、前回意見として出されています。</p> <p>その関係から、3校同時というのは大丈夫なのかという意見がありました。</p> <p>周知期間を十分踏まえることが必要になりますので、再編時期を見直す必要があるのではないかとということですが、ご意見があればお伺いしますがいかかでしょうか。</p>
委員	<p>仮校舎を作って移転してまた新しくという方策も今まで出てきた案の中では解消できるという案が前回出ていましたが、一つは甘木中学校を残し活用して6校体制でやっていくと、田隈中学校は生きてくるわけなので橘中学校に対しての影響は少ないということで、建替えの関係もおおよそ現存の校舎なり校地でできるのではないかと思います。</p> <p>なので、年度的には平成33年は進めていってよいのではないかと気がします。</p> <p>また、中学校を先にやって、1年遅れて小学校を再編という形になりま</p>

	<p>すが、地域コミュニティの崩壊等も考慮してくださいということで私も質問させていただきましたから、通学区域を早く通学区域審議会で並行して検討してもらい、同時にやるという方向性を示せば保護者の方々も承諾してもらえるのではないかと思います。</p> <p>ただ、この再編のところだけで決めてしまうのではなくて、地域の方の了解を得られれば33年度でやっていってはどうかと思っています。</p>
委員長	<p>懸念されている33年度3校同時開校の問題です。</p> <p>丁寧な周知が必要になりますが、もし仮にこれが時間を要し、再編を見直すということになると小学校にも影響してきます。</p> <p>そうすると、小学校の再編時期を見直すということも必然的に出てきますので、今度は今の再編計画期間が平成27年度から10カ年で平成36年度までとなっていますが、この枠内からはみ出す可能性が出てきます。</p> <p>そうすると、計画期間の見直しをどうするかという新たな問題も出てきますので、これについては今後また詰めていく必要があると思います。</p>
委員	<p>これまで8回、検討委員会ではよく議論を重ねてきたと思います。</p> <p>最終的にはこの検討委員会から中間見直しについての答申を出すこととなりますが、先ほどから出ています地域の声を聞くとか、説明をしてというところも必要だと思います。</p> <p>ですから、答申を地域、学校に説明して、そこからも皆さんの声を十分に聞くという対応が、学校、地域の皆さんから理解を得られるのではないかと思います。</p>
委員長	<p>子ども達のために再編を進めていくには地域とともにという大事な視点がありますので、これをきちんと踏まえることがとても大事なことだと思います。</p>
委員	<p>前々回、私は3校同時は目標としてはあっても、実際には相当大変だろうと、事務局の心配もありますし、各学校同士の関係で錯綜する場面が出てくることを心配していました。</p> <p>計画の10年にどの程度縛りがあるのかは分かりませんが、33年を中心に少しずつずれてでも計画が進行していくような形の方が、現場や地域の方々の声も錯綜せずに済むのではないかと思います。</p> <p>それで声をしっかり拾っていくという体制が必要ではないかと感じたところです。</p>
委員	<p>中学校が再編していくと小学校に下りていきますが、小学生が右往左往しないように中学校をきちんと決めて小学校区域はこうですよと、同時平行でいかないと、小学校は後ありきとなると小学校区の保護者がどの学校か迷う状況が出てくると思います。</p>
委員長	<p>中学校から小学校に移りますが、小学校区は非常に重要になってきますので、そこをきちんとすることは大事です。</p> <p>ただ、3校同時が心配されますので、果たしてこれが現実問題として可能かどうか、きちんと詰めていく必要があると思います。</p>
委員	<p>再編に関し地域からよく耳にすることで、「あそこは無くなるらしい、ここは残るらしい」といった噂話があり、保護者がすごく不安に思っている</p>

	<p>ようで、地域や保護者にはしっかりした説明をしていくべきだと思います。</p>
委員長	<p>以上で現計画をこれまで見てきましたが、今までの検討、協議内容を基に、見直しの視点から改めてご意見をたくさんいただきました。</p> <p>なお、今後の議論の中でさらに見直しを必要とするものや内容を検討する項目が生じた場合は、整理して皆さんのご意見をまた伺いたいと思います。</p> <p>今回の議事のまとめと次回の議題について進めます。</p> <p>まず、前々回、前回の学校施設活用の検討について、皆さんのご意見、諮問等に関して事務局から補足説明等を受けました。</p> <p>次に、小中一貫校に関して議論をしましたが、これについては皆さんの意見をまとめ次回引き続き議論をしたいと思います。</p> <p>最後に、これまでの検討、協議内容を中心に現計画を見ながら、見直しが想定される項目等について共通認識をしました。</p> <p>次回は、中間見直しの項目や考え方等を整理しながら、まとめていきたいと思います。</p> <p>以上が、今回の議題を含めてのまとめですが、皆さんよろしいでしょうか。</p>
委員全員	<p>了承</p>
委員長	<p>今回のまとめや追加の資料等があれば、事務局で対応をお願いします。</p> <p>最後にその他、皆さんから何かございませんか。</p> <p>私から委員の皆さんにお尋ねとお願いです。</p> <p>これまでの委員会の検討状況から、皆さんには会議回数が予定より増えたり、検討期間が延びるような話も少ししてきました。</p> <p>今年度は今回が最後ですが、当委員会の議論がいつ頃までなりそうか皆さん気にされているところだと思います。</p> <p>答申をあまり伸ばすことはできませんが、議論は十分尽くしたいと思っています。</p> <p>そこで、私としては5月一杯は皆さんに引き続きお願いしたいと思っていますが、いかがでしょうか。</p>
委員全員	<p>了承</p>
委員長	<p>それでは、次回も現在の検討委員会として進めたいと思いますが、事務局もそれでよろしいですか。</p> <p>次回の開催等について、事務局何かありませんか。</p>
事務局	<p>次回の検討委員会は、できれば4月に、と思っています。</p> <p>答申という形に向かって詰めていかれる部分もありますので、4月には開催をお願いできたらと思っています。</p>
委員長	<p>時期は改めて連絡をいただくということで、4月には開催、5月には2回ほどあるかもしれないということです。</p> <p>それでは、以上で本日の審議を終了します。</p>

3 閉会